長野県のツキノワグマ目撃及び人身被害の状況

令和8年10月30日 現在

長野県林務部　森林づくり推進課

●目撃情報と皆さまへのお願い

・この1週間の県全体の人の生活圏におけるクマの目撃件数は8件と、例年の同時期に比べて非常に少ない状況が続いていますが、一部の地域では河川沿いを移動するクマの目撃情報が寄せられています。河川沿いはクマが移動経路として利用することがあるので、ヤブが多く、見通しの悪い河川沿いは注意が必要な場所のひとつです。

・ヤブで見通しの悪い場所、山野や山ぎわで活動される際は、音の出るものを携行するなど基本的な対策を行い、クマとの遭遇に十分ご注意ください。

・また、集落や山ぎわで収穫されない柿や栗にクマが餌付くケースがあります。実った柿や栗は確実に収穫いただくほか、利用予定のない果樹は伐採処分するなど、クマを集落に誘引しないための取組にご協力ください。

・目撃が少ないこのような時こそ、廃棄野菜や家庭の生ゴミなどを適切に管理・処分いただき、出没したクマに人の生活圏を餌場として学習させないよう、引き続きご協力をお願いします。

●人の生活圏でのツキノワグマの目撃件数の推移（速報値）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4-3月計	人身被害件(人)
H18	22	27	108	252	817	909	751	434	42	－	－	－	3,362	16(18)
H22	8	38	112	159	327	535	269	139	4	－	－	－	1,591	14(14)
H26	14	52	79	138	263	413	430	177	9	－	－	－	1,575	31(32)
R03	16	78	210	266	205	116	83	62	20	1	0	2	1,059	16(16)
R04	20	56	124	147	211	113	50	26	9	3	3	8	770	8(8)
R05	25	68	288	235	275	209	156	117	23	5	3	2	1,406	11(12)
R06	20	107	347	273	348	203	67	49	8	4	2	2	1,430	12(13)
R07	25	59	226	200	183	176	219	174	42	9	4	7	1,324	11(16)
R08	30	119	354	212	89	68	36						908	4(4)

※人身被害は林内での発生も含む。

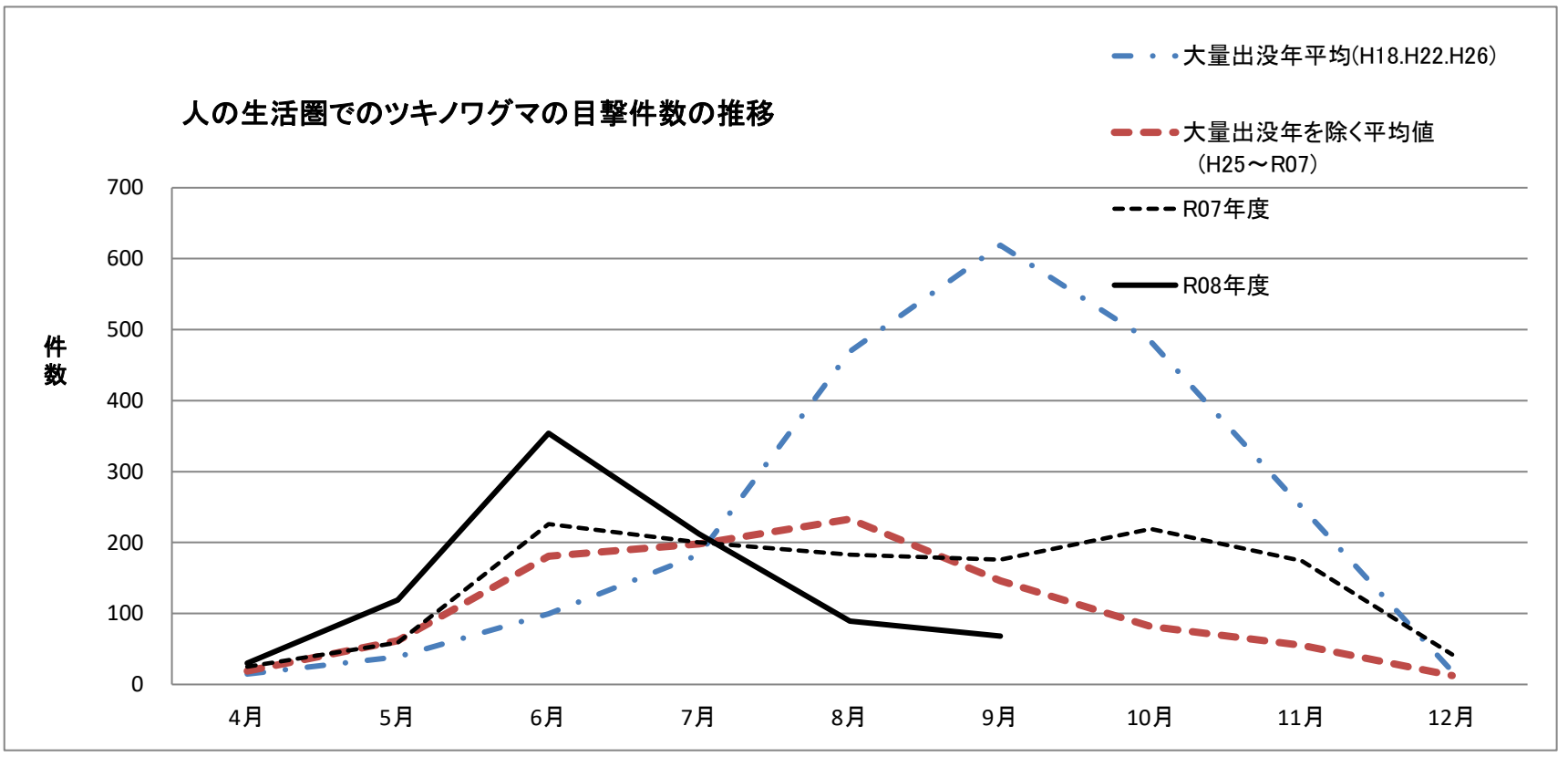
網掛けのセルは大量出没年。

●地域別目撃件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4-3月計	人身被害件(人)
佐久地域	―	2	1	1	1	4	1						10	1(1)
上田地域	1	2	9	6	2	―							20	－
諏訪地域	1	3	2	―	―	―							6	－
上伊那地域	1	4	12	6	6	8	1						38	1(1)
南信州地域	1	5	17	15	3	3	6						50	－
木曽地域	3	21	108	44	26	25	4						231	－
松本地域	1	26	53	26	19	13	6						144	－
北アルプス地域	7	27	107	70	11	2	9						233	1(1)
長野地域	11	16	28	30	13	4	7						109	1(1)
北信地域	4	13	17	14	8	9	2						67	－
計	30	119	354	212	89	68	36						908	4(4)

〔参考〕大量出没年、大量出没年以外の平均目撃件数との比較

凡例	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4-12月 累計	人身被害 件(人)
大量出没年平均 (H18.H22.H26)	15	39	100	183	469	619	483	250	18	2,176	20.3(21.3)
大量出没年を除く平均値 (H25～R07)	19	62	181	198	233	146	82	55	13	989	8.7(9.6)
R07年度	25	59	226	200	183	176	219	174	42	1,304	11(16)
R08年度	30	119	354	212	89	68	36			908	4(4)



・平常年は、山のエサが少なくなり農作物が収穫を迎える8月が目撃件数のピークとなっている。令和7年は6月に226件と急増し、その後も夏から秋にかけて高い水準で推移した。10月には再び増加が見られ、年間を通じて人の日常生活圏での目撃が多い状況が続いた。
・大量出没年では、8月から11月にかけて目撃件数が増加し、特に9月、10月が顕著に増加している。堅果類の豊凶の影響が推察される。